

令和8年8月28日

ー日本水道協会会長表彰ー

令和8年度水道イノベーション賞・水道イノベーション広報大賞について

公益社団法人日本水道協会は、令和8年8月24日（月）、令和8年度水道イノベーション賞及び水道イノベーション広報大賞の選考会を開催しました。今年度は水道イノベーション賞11取組、水道イノベーション広報大賞は23取組の応募があり、厳正なる選考の結果、令和8年度水道イノベーション賞大賞および水道イノベーション広報大賞の受賞取組が決定しました。

なお、授賞式は、令和8年10月21日（水）から開催します日本水道協会全国会議（於：長崎市）にて行う予定です。

※受賞取組は裏面のとおり

担当：計画調整室計画調整課 星野、古川

TEL：03-3264-2337 Mail：innovation@jwwa.or.jp

令和8年度水道イノベーション賞及び水道イノベーション広報大賞 受賞取組

◎水道イノベーション賞

<大 賞>

団体名：福岡地区水道企業団

取組名：日本初！浸透圧発電の実用化

<特別賞>

団体名：豊田市上下水道局、岡崎市上下水道局、安城市上下水道部、
西尾市上下水道部、知立市上下水道部

取組名：給排水工事オンライン申請システムの共同導入
～西三河5市によるデジタル広域連携～

※ 受賞理由は「別紙1」のとおり

◎水道イノベーション広報大賞

<大賞（正会員）>

団体名：宇都宮市上下水道局

取組名：「うつのみやストロベリーサーモン」の養殖による水道PR事業

<特別賞>

団体名：小諸市上下水道課

取組名：次世代の水のファンをつくる官民の取組

W-PPP Initiatives to Inspire the Next Generation of Water Fans

<大賞（賛助会員）>

団体名：株式会社フソウ

取組名：香川発 防災拠点としての自社社屋活用

地域レジリエンス強化と水・防災意識を高める市民協働

<特別賞>

団体名：東亜グラウト工業株式会社

取組名：技術者の想いを「誰でも、わかる」アニメへ！

～技術部門と広報の社内リレーが生んだ 水道技術の伝え方～

※ 受賞理由は「別紙2」のとおり

令和 8 年度水道イノベーション賞 受賞理由**大賞 福岡地区水道企業団****日本初！浸透圧発電の実用化**

海水淡水化の過程で生じる「濃縮海水」と下水処理場から排出される「下水処理水」、二つの水の塩分濃度差により生じる浸透圧を利用し、水車を回して発電を行う「浸透圧発電」の実用化を図った取組である。

海水淡水化には大きな電力負荷が生じるため、省エネや脱炭素化が重要な課題となっており、また、生産過程で生じる高塩分濃度の「濃縮海水」についても、有効な活用方法が見出せない状況にあった。

浸透圧発電の実用化により、濃縮海水と下水処理水の未利用資源に新たな付加価値を創出した国内初の取組であり、脱炭素社会の実現に資するほか、技術展開も期待できる先進的な取組であり、大いに評価できる。

特別賞 豊田市上下水道局、岡崎市上下水道局、安城市上下水道部、西尾市上下水道部、知立市上下水道部**給排水工事オンライン申請システムの共同導入
～西三河 5 市によるデジタル広域連携～**

西三河 5 市で給排水工事のオンライン申請システムを共同導入した取組である。

これまで給排水工事申請は紙ベースで審査業務を行っており、業務効率化、スペース最適化、DX コスト抑制などの課題を抱えていた。豊田市、岡崎市、安城市、西尾市、知立市はこれらの課題を解決するため給水装置工事と排水設備工事に関する電子申請システムの共同導入を行った。

電子申請によって自治体が行う審査事務の効率化や申請者の利便性向上にかなげるとともに、コストの削減を図った取組であり、複数の事業体での共同導入は他都市の模範ともなるため、大いに評価できる。

令和8年度水道イノベーション広報大賞 受賞理由**大賞（正会員） 宇都宮市上下水道局****「うつのみやストロベリーサーモン」の養殖による水道PR事業**

宇都宮市では水道水の飲用率低下による料金収入の減少などにより将来における安定経営・安定給水が懸念されており、飲用需要を拡大させ収益確保につなげるため、水道事業への理解と信頼を構築する効果的なPR事業に取り組む必要があった。

このため、「水道水の水質の良さの認知向上」と「水道水を飲む習慣の促進」を図るため、水道水の原水及び水質監視池を活用して魚の養殖を実施した取組である。

水道施設の開放イベントにおいて、養殖した魚の試食会をキッチンカーで実施するなど、単なる周知ではなく「見て・食べて・体験する」広報へ転換したことで水道水飲用率の向上につながり、水質の良さを「魚が早く育つ」という分かりやすい形で可視化することで、水道水の価値を体験的に伝えており、水道施設と他分野を掛け合わせた取組として、大いに評価できる。

特別賞 小諸市上下水道課**次世代の水のファンをつくる官民の取組****W-PPP Initiatives to Inspire the Next Generation of Water Fans**

小諸市は浅間山の火山活動の関係で硬水、軟水両方の良質な水源に恵まれ、その特徴を活かした多くの特産品が存在している。このように良質な水源の恵みがあるにも関わらず、その水源を利用している水道の魅力が市民の方に十分に伝わっておらず、インフラの重要性や将来の事業への理解を得る次のSTEPに移れないという課題があった。

このことから、官民の双方において、クラウドファンディング等の活用や、地域や企業を巻きこんだ小諸市の様々な魅力を戦略的に発信し、次世代の水のファンを育んだ取組として大いに評価できる。

大賞（賛助会員） 株式会社フソウ

香川発 防災拠点としての自社社屋活用 地域レジリエンス強化と水・防災意識を高める市民協働

香川県高松市の自社施設を地域防災拠点として整備し、耐震性貯水槽等の水道・防災設備を配備した。

この拠点を有効利用するために、平時から体育館や食堂を地域に開放するフェーズフリーの取組や、自治会との合同避難訓練、親子防災キャンプ等の市民協働を実践した。

このことにより、地域のレジリエンス強化、水道への理解、水・防災意識の啓発の推進を実現した取組であり、水道関連企業としてのリソースを生かして地域社会へ貢献する取組として、大いに評価できる。

特別賞 東亜グラウト工業株式会社

技術者の想いを「誰でも、わかる」アニメへ！ ～技術部門と広報の社内リレーが生んだ 水道技術の伝え方～

水道インフラの急速な施設の老朽化、財源や人材の不足という課題に対し、AI や衛星を活用した最先端技術により課題解決に取り組んでいるが、その技術の価値が十分に伝わらないという課題があった。

この課題を解消するため、「どうすれば伝わるか」と常に相手目線で考え、技術部門で使用する専門用語を広報担当として日常的な言葉に「翻訳」し、各水道事業体の方々に複雑な技術を「正確かつ直感的に伝える」ため、アニメーション動画を制作したものである。

徹底して分かりやすさを追求した結果、技術動画が「誰でも、わかる」コンテンツへと昇華したもので、一般の方にも「まちの水道インフラがどのように守られているか」を知っていただける「伝わる広報」の実践事例として、大いに評価できる。